

論理的記述力とはどのような能力なのか —chatGPTが解答するバカロレア試験を手がかりに—

はじめに

坂本先生のご著書『バカロレアの哲学「思考の型」で自ら考え、書く』を拝読し、「(論理的) 思考」と「言語 (表現)」と「型 (方法)」との相互関係について改めて考える機会を得ました。そこで今回は、chatGPTが解答したバカロレア試験を手がかりにこの問題をさらにみなさんと深めることができたらと思います。

1 バカロレア試験とその解答の型 (方法)

資料1 坂本尚志『バカロレアの哲学「思考の型」で自ら考え、書く』(日本実業出版 2022)

2 chatGPTが解答するバカロレア試験

資料2

労働はわたしたちをより人間的にするのか？

労働が人間的な成長や自己実現に貢献するかどうかは、個人の経験や状況によって異なるでしょう。ただし、労働が人間的な成長に貢献する可能性があるいくつかの理由があります。

第一に、労働は社会的なつながりを形成する手段として機能することができます。職場や仕事の環境で他の人と交流することは、自己肯定感や自己認識を高め、個人の自己実現につながる可能性があります。

第二に、労働は個人的な成長とスキル習得につながります。職場での挑戦や責任の増加によって、個人は自己充足感を得ることができます。また、新しいスキルや知識を習得することは、個人の自信を高め、自己実現につながるすることができます。

つまり、労働が個人の自己実現につながらない場合もあります。労働によって、個人の生活条件が悪化することもあります。

しかし、適切な条件で、労働は個人の自己実現や成長につながる可能性があります。

技術はわたしたちの自由を大きくさせるのか？

技術自体には、利用者に新しい選択肢や機会を提供する可能性があります。同時にその技術人々を使うのプライバシーや安全性にも同意が存在します。

例えば、インターネットやスマートフォンは、私たちに情報やコミュニケーションの自由を増大させましたが、同時にプライバシーの問題やデータの悪用など、選択も控えています。また、人工知能や自動化技術は、私たちの生活を簡素化、効率化を促進、一部の利用機会を脅かす可能性もあります。

つまり、技術がわたしたちの自由を削減させるかどうかは、その技術をどのように使うかによって決めます。また、個人レベルでは、自己管理や情報セキュリティに関する意識を高めることも重要です。

問題1・労働「労働はわれわれをより人間的にするのか？」

1. 問題のテーマ…労働

2. 問題の形：「はい」「いいえ」で答えられるもの

3. 言葉を定義する：

定義しておかなければならないのは、「労働」と「人間的」です。「労働」は「人間が目的を持って道具を用いて行なう自然の変容」であるとしれば定義されます。ただし、この定義は自然を対象としない労働を含んでいない時点で、限定されたものです。問題を分析してみても、この定義では不十分であるということになれば、その時に定義を見直すこととしましょう。

「人間的」であるとはどういうことでしょうか。人間として生まれた以上、人間は人間ではないのでしょうか。もちろんそう考えることもできます。しかし、ここで注目すべきは「より」という比較を表す言葉です。「人間的である」ということには、程度の違いがあるようなのです。「より人間的である」とは、「人間本来の生き方により近いことである」と仮に定義してみましょう。「人間本来の生き方」という表現はまだ曖昧ですが、とりあえずの出発点としては十分でしょう。

4. 問題に「はい」「いいえ」で答える

「はい」という答えは「労働はわれわれをより人間的にする」、「いいえ」は「労働はわれわれをより人間的にしない」でいいでしょう。「いいえ」については、「労働はわれわれを必ずしもより人間的にしない」や「労働はわれわれをより人間的にするどころか、反対に非人間的にする」といったニュアンスを入れても間違いではありません。とりあえずは（変な言葉ですが）より中立的な否定表現にしておきましょう。

5. 問題を問いの集まりに変換する

さて次に、この問題を複数の問いの集まりにしてみましょう。

・労働とはどのような行為なのか？

・人間的であるとはどういうことか？

・なぜ労働はわれわれをより人間的にするのだろうか？

・どのようにして労働はわれわれをより人間的にするのだろうか？

・仮に労働がわれわれをより人間的にしないならば、それはどのような場合か？

こうした問いに「はい」「いいえ」それぞれの立場から考えてみるのが問題を解く次のステップです。

150

6. 解答の方針を決める

解答のおおまかな方針を決めましょう。労働は、人間の本質を実現する行為であるという立場と、むしろ人間をその本質から遠ざける非人間的な行為であるという二つの立場が考えられます。それぞれ「はい」「いいえ」に対応するわけですが、もちろん「はい」↓「いいえ」あるいは「いいえ」↓「はい」の順序で議論すれば合格点の答えは書けるでしょう。しかしここでは、第三の立場で両者を統合することを考えてみましょう。労働はわれわれを常により人間的にするとは限りません。むしろ、労働によってわれわれは悲惨な状況に追い込まれることもあります。石川啄木の「はたらけどはたらけど猶わが生活楽にならざりぢっと手を見る」ではありませんが、労働によって人間は心身ともに追い込まれることもあるのです。

それでは、それははたして労働の本性なのでしょうか？ わたしたちは仕事にやりがいや楽しさを求めます。そうした「楽しい仕事」は、おそらくわれわれの生をより人間的なものにするでしょう。もちろんそれが一種の「やりがい搾取」に陥る可能性もあります。とはいえ、このことから、労働が単によいものである、あるいは逆に悪いものであると断言することはできないことがわかります。

では、何が問題なのでしょうか？ おそらく、労働それ自体が非人間的なのではないで

しょう。社会の中での労働の組織のされ方によって、それはわれわれを人間的にしたり、あるいは人間的な生活から遠ざけたりするのではないのでしょうか？

つまり、問題文に「はい」と「いいえ」で答えることによって、どちらの答えも不十分であることが明らかになるのです。「労働はわれわれをより人間的にする」という答えは現実には労働が生み出す問題を見ていません。逆に「労働はわれわれをより人間的にする」とは「いいえ」という答えは、労働の肯定的な性質を見落としています。両者が両立不可能である以上、その調停点を見つけなければいけません。それが第三の立場です。では、具体的な構成案を見ていきましょう。

7. 構成案を作る

↓導入

・労働とは、狭義においては人間が目的を持って行なう自然の変容である。それは道具の使用を伴う人間固有の行為であり、かつ人間の本質である。

・そうであるなら、労働はわれわれをより人間的にすることは当然のように思われる。

・しかし実際には、労働に関してはしばしばその苦しさや単調さが強調される。ここではあたたかも労働が非人間的の象徴であるかのようなのである。

151

153

152

- 労働とは人間にとって一体どのような意味を持っているのか？
- 労働がわれわれをより人間的にするのなら、それはどのような理由によって、またどのような過程によってであろうか？
- 労働がわれわれの生の向上に寄与しないのであれば、それはどのような場合だろうか？
- 結局のところ、労働はわれわれをより人間的にするのだろうか？

展開①「労働はわれわれをより人間的にする」

マルクスによれば、労働とは人間固有の行為である。労働は人を動物から区別する人間の本性であり、しかも、労働を通じて人間はその本性を実現していく。

人間にとっての労働のこうした本質的なあり方を、ヘーゲルは『精神現象学』において「主人と奴隷の弁証法」によって表現した。二つの自己意識が自己の承認をめぐって争う時、勝利した側は「主人」となり、敗れた側は「奴隷」となる。奴隷は自由を失い、主人の欲望を満たすため労働する。しかし、奴隷は自然を相手に労働することによって独立した存在となり、主人は奴隷の労働に依存した存在となる。すなわち、労働によって主人と奴隷の地位は逆転する。その意味で労働は人間的な自己を作り出す行為でもある。

- しかし、労働は苦痛でもある。目的の達成のために、働く人は意志の絶え間ない緊張を必要とする。仮に労働がその目的において人間の本質を実現するとしても、その実現の過程は苦しみを伴っている。
 - それでもなお、労働はわれわれをより人間的にすると言えるのだろうか？
- 展開②「労働はわれわれをより人間的にするわけではない」
- 古代においては、労働は人間の本質を実現する行為ではなかった。『政治学』においてアリストテレスは、自由人と奴隷を区別し、労働はそれに適した身体を持つ奴隷の仕事であると考えた。
 - ニーチェもまた、労働の価値の賛美に疑問を投げかけている。彼は『曙光』において、労働を「最上の警察」であるとしている。ニーチェによれば、労働とは人間性の抑圧にほかならない。
 - 異なる視点からの労働の批判として、『経済学・哲学草稿』におけるマルクスの議論が挙げられるだろう。彼は、労働者がより多くの富を生産すればするほど、労働者自身は貧しくなっているという過程を、「疎外された労働」という概念によって表した。労働者は自分の労働の成果から遠ざけられるばかりか、それに隷属して生きていくことにな

- る。それは労働の非人間的な形式である。
- このように、労働は人間の本質であるどころか、人間を本質から遠ざけるものである。疎外された労働という概念は、特に労働によってわれわれが非人間的な環境に追いやられるメカニズムを明らかにしている。
 - しかし、労働が非人間的であるのは、はたして労働の本質なのだろうか？ 労働に対する称賛は、すべて間違いないのだろうか？ それとも、「よい労働」が存在するのだろうか？

展開③「労働のあり方がわれわれのあり方を規定する」

確かに労働は苦痛でありえるものの、その一方でヘーゲルが述べているように、自然の欲求を充足するだけの存在とは異なるものに人間を変容させる活動である。その意味で、労働には肯定的な意義が確実に存在している。

もしそれが非人間的であるのだとすれば、それは労働そのものではなく、労働の組織のあり方に原因があるのではないだろうか？

マルクスとエンゲルスは疎外された労働の原因を階級闘争に求め、その解決として共産主義を構想した。労働によって生産された富を、可能な限り公正に分配することによって疎外を生み出さない労働の組織、ひいては社会のあり方を考えることは、われわれ

- より人間的にするような労働を考える一つの手段である。
- さらに、労働自体のあり方を考えることも必要だろう。目的を常に意識する活動であり、それが次の労働を際限なく作り出すような「労働のための労働」ではなく、アランのようになら、労働それ自体に「楽しさ」を見出すこともできるのではないだろうか。それは言い換えるなら、自己実現と成長の手段としての意味を持つ労働の可能性について思索するということである。

結論

- 人間は労働によってその本質を実現することができる。
- しかし、同時に労働は苦しみをもたらす行為でもある。疎外された労働の概念は、労働の非人間性を端的に表現している。
- とはいえ、労働には肯定的な意義が変わらず存在している。疎外された労働や、労働のための労働から脱却する方途を考えることもまた、重要な知的労働であり、われわれをより人間的にするものであると言えるだろう。
- つまり、それが抱える問題にもかかわらず、労働は依然としてわれわれをより人間的にするものであり続けるのである。

坂本尚志 (さかもと たかし)
1976年生まれ。京都薬科大学准教授。京都大学文学部卒業、同大
大学院文学研究科博士課程研究指導認定退学。ポルドー第三大
学大学院哲学科博士課程修了。博士(哲学)。専門は20世紀フラン
ス思想史(ミシェル・フーコー)、哲学教育。
著書:『バカロレア幸福論 フランスの高校生に学ぶ哲学的思考
のレッスン』(星海社新書)、『共にあることの哲学と現実 家族・
社会・文学・政治』(共著、書肆心水)ほか。

バカロレアの哲学 「思考の型」で自ら考え、書く

2022年2月1日 初版発行

著者 坂本尚志 ©T.Sakamoto 2022

発行者 杉本淳一

発行所 株式会社日本実業出版社 東京都新宿区市谷本村町3-29 〒162-0845

編集部 ☎03-3268-5651

営業部 ☎03-3268-5161 振替 00170-1-25349

<https://www.njg.co.jp/>

印刷/社光舎 製本/若林製本

本書のコピー等による無断転載・複製は、著作権法上の例外を除き、禁じられています。
内容についてのお問合せは、ホームページ (<https://www.njg.co.jp/contact/>) もしくは
書面にてお願い致します。落丁・乱丁本は、送料小社負担にて、お取り替え致します。
ISBN 978-4-534-05903-1 Printed in JAPAN

別解の可能性

•しかし、労働はわれわれを人間的にする最良の手段であるのだろうか？

以上が導入・展開・結論による構成案の例ですが、もちろん、他の解答も可能です。「はい」「いいえ」の二つの立場のうちどちらか一方を支持することもできるでしょう。その場合、結論の直前に置かれる立場(つまり自分が支持する立場)が優位であることをはっきり示さなければなりません。具体的には、最初の立場の論拠に逐一反論していくことが必要です。「はい」↓「いいえ」であれば労働が人間的な営みであることを否定し、「いいえ」↓「はい」であれば、労働の価値を称賛しなければなりません。議論の筋道が明快であれば、それもよい答案です。

また、例では「はい」↓「いいえ」↓「第三の立場」という構成をとりましたが、「いいえ」↓「はい」↓「第三の立場」という順序も考えられるでしょう。たとえば、非人間的な労働について論じた後に、労働の肯定的側面について考察を行います。すると、「なぜ本来人間的な労働が、現実には非人間的なものとして現れているのだろうか？」という問いを立てることができるでしょう。構成案はあくまで一例にすぎません。